

果樹病虫害発生状況（4月中旬）

【リンゴ】

1 リンゴうどんこ病

花そう葉での発生は、確認されませんでした。

2 リンゴハダニ

越冬量調査（令和4年12月）において、越冬卵が確認されたほ場の割合は平年並でした（図1）。

越冬卵密度の高い園地では、発生密度に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を散布しましょう。

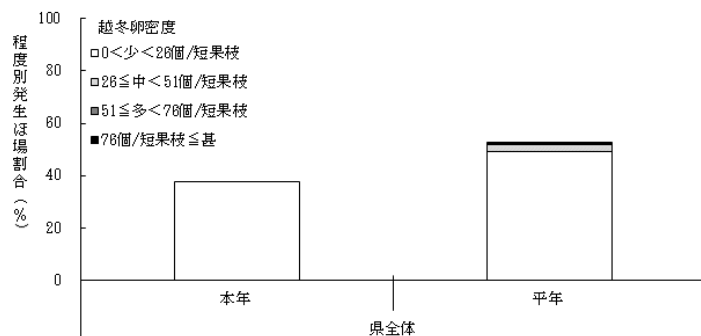


図1 リンゴハダニ（越冬卵）の発生状況（令和4年12月）

3 ハマキムシ類

越冬世代幼虫の花そう被害は、確認されませんでした。

【モモ】

1 モモせん孔細菌病

4月中旬の巡回調査（県北地方、品種「あかつき」）において、春型枝病斑の発生は確認されませんでした。参考調査ほ場の「ゆうぞら」や他地域のほ場では3月下旬から4月中旬まで発生が確認されています。

春型枝病斑は見つけしだい、せん除し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意しましょう（令和5年4月21日付け病虫害防除情報「モモせん孔細菌病」参照）。

2 ハマキムシ類

越冬世代幼虫の花らい被害は、確認されませんでした。

【ナシ】

1 ナシ黒星病

越冬量調査（令和5年2月）において、鱗片における越冬病斑の発生は確認されませんでした。また、4月中旬の花そう基部病斑の発生は割合は、例年よりやや低い状況でした（図2）。

芽基部病斑は、鱗片が脱落せず付着したままの花そうを発見の目安とし、見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意しましょう（令和5年4月21日付け病害虫防除情報「ナシ黒星病」参照）。



図2 ナシ黒星病（花そう基部病斑）の発生状況（令和5年4月）

2 ハダニ類

越冬量調査（令和4年12月）において、越冬卵が確認されたほ場の割合は平年並でした（図3）。

越冬卵密度の高い園地では、発生密度に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を散布しましょう。

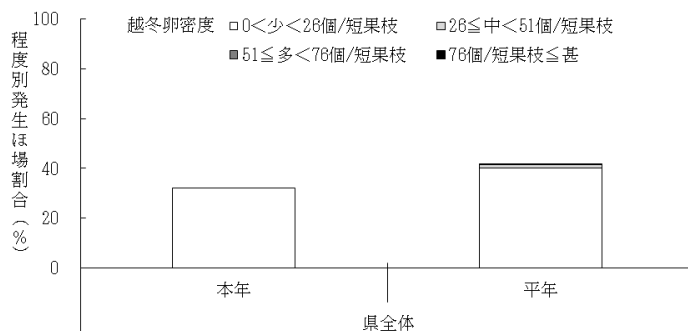


図3 ハダニ類（越冬卵）の発生状況（令和4年12月）

3 ハマキムシ類

越冬世代幼虫の花そう被害は、確認されませんでした。